

## とわだ 十和田ホテル建設工事

受賞機関 秋田県商工労働部観光課  
秋田県土木部営繕課

### はじめに

当施設は、十和田・八幡平国立公園内の十和田湖畔に昭和13年に建設された秋田杉を使用した宿泊施設である。

建築後、半世紀以上経過し老朽化、観光客ニーズ等の変化に対応する施設とするため、文化的・歴史的価値の高い木造三階建てを全面的にリニューアルしたものである。

### 事業の概要

実施機関：秋田県

実施工期：平成8年7月5日～平成10年6月29日

総事業費：4,472,467,000円

所在地：秋田県鹿角郡小坂町十和田湖字鉛山

構造・規模：

本館 木造一部RC造地下1階地上2階建

新館 RC造地下1階地上3階建

建築面積：3,049㎡

延床面積：7,790㎡

客室 本館21室（77名）

新館29室（61名）

### 事業の特長

整備にあたっては、天然秋田杉を使用した歴史的、文化価値の高い建築物として評価されてきた当ホテルが、築後半世紀以上経過し、老朽化が著しく機能的にも改善



本館玄関部分



ホテル東側外観

を要することから全面的な改修を行った。

既存木部の腐朽部分の改修、耐震補強及び清掃・洗浄を実施して建設時とはほとんど変わらない姿によみがえらせ建物寿命の延長を図った。

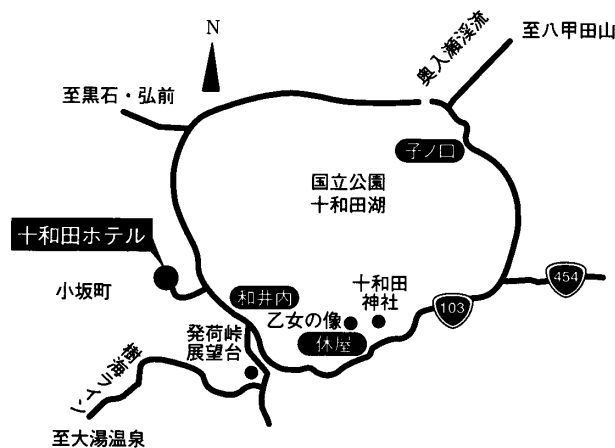
さらに、木材の仕口の改良、防腐処理、断熱性能の向上にも配慮した。

新館については、全宿泊室、レストラン、大浴場から十和田湖が眺望できる平面計画とした。

さらに、中庭を挟んで文化価値の高い木造本館を望めるように計画されている。

改修後には、県内はもとより全国からの観光客に利用されており、平成12年の冬期から通年営業する予定である。

受賞賛助会員 大成建設(株)東北支店



位置図

# VR テクノジャパンテクノプラザ建築工事

受賞機関 岐阜県基盤整備部公共建築課

## はじめに

VR(バーチャルリアルティ)技術は「もの造りの革命」を起こす21世紀のキーテクノロジーとして、設計、建設、医療、福祉、教育、芸術、アミューズメントなど幅広い分野でその応用が飛躍的に拡大すると期待されている。

「VRテクノジャパン(テクノプラザ)」は、このVR技術に着目し、先端技術の研究者のネットワーク化や「研究者のたまり場」を整備することで、岐阜県を国際的なVR研究開発拠点とするとともに、産業の頭脳部分である研究開発、情報関連などの分野の集積を図り、地域産業における高度な生産体制の確立、製品の高付加価値化(超ハイテク・オーダーメイドのものづくり)を目指して建設された中心支援施設である。

## 事業の概要

### (1) 事業主体

- ・岐阜県
- ・(株)VRテクノセンター(第3セクターの会社)

### (2) 建設場所

岐阜県各務原市須衛町4丁目  
VRテクノジャパン業務団地

### (3) 施設の規模

延べ面積	11,462.69㎡
南棟	3,554.41㎡
北棟	7,908.00㎡

### (4) 敷地面積 23,676.53㎡

### (5) 工期 H8.12.~10.7.30

### (6) 設計コンセプト

「自然環境と先端技術の融合」

### (7) 設計者 リチャード・ロジャース(英国)

## その他の特徴

丘陵地に建設された、この建物は斜面の頂点に北棟と、斜面にそって建てられた南棟からなっており、PC建築でありながら、繊細な線、豊かな表情、シンプルなディテールとなっている、PC板と在来工法とハイブリット構造とすることによって、断面の軽減を図っている。

柱 PC柱-20×30cm、梁等-T型PC板



全景

### (1) 南棟

約18度の勾配の斜面に3層の縦壇状に建てられており、下層の屋根が上層をテラスとして利用するため、3層の屋根は全て植栽化されている。また、平面も地形に合わせた緩やかなS字を描いている。

### (2) 北棟

北棟は南棟と調和した平面と、ランドスケープにとけ込むボールト状の曲面屋根が特徴、内外空間に露出する梁のみPC化し屋根下地の鉄骨を剛接合で一体化し、ハイブリット構造となっている。

### (3) 施設の内容

#### ① 科学技術図書館

科学技術に関する国内外の図書、雑誌、CD-ROM、企画、特許情報など資料を幅広く収集し(収蔵能力約15万冊)研究者、技術者を対象とした高度な専門図書館

#### ② 展示ホール

簡易型VR立体システム(イマーサデスク)及びデジタルビデオを装備した、プラズマ・ディスプレイシステム等によりVR技術の体験と県内の試験研究機関の研究成果の紹介等を行っている。

#### ③ プラザホール

200インチハイビジョンや3カ国語の同時通訳システムを装備した300席対応のホール

#### ④ AV会議室

100インチハイビジョン、テレビ会議室システム等利用(収容人員20名)

受賞賛助会員 (株)市川工務店、大日本土木(株)

# ほんかん 神戸税関本関整備事業

受賞機関 建設省近畿地方建設局営繕部

## はじめに

神戸税関旧本館庁舎は、昭和2年に竣工し、その後約70年の長きにわたり「港神戸」のシンボルとして市民に親しまれてきた。

今回の事業は、この旧本館庁舎を保存・再生し、積極的に活用することにより、貴重な歴史的景観を未来に継承しつつ、昨今の税関業務における高度情報化に対応可能な施設整備を行った。

## 事業の概要

平成7年度から4カ年継続事業により実施、総事業費は約117億円である。

### 建設規模等

敷地面積：10,228.50㎡

建築面積：5,231.94㎡

延床面積：24,144.61㎡

構造：旧本館 鉄筋コンクリート造

新館 鉄骨鉄筋コンクリート造  
鉄骨造

階数：地下1階、地上10階

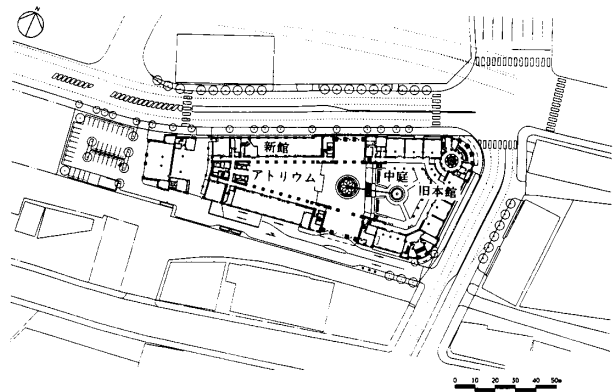
## 事業の特徴

以下の点に留意し事業を進めた。

- ①周辺の歴史的景観を重視し、旧本館を保存再生  
記念碑的でなく、積極的に保存建築物を活用すべく、一部だけでなくインテリアも含めた保存再生を行う。
- ②市民に愛され、親しまれる“開かれた税関”  
旧本館と新館との間に、中庭及びアトリウムを設け、一般市民に開放し、新しい税関の顔として市民に親しまれる建物とする。
- ③旧本館のイメージを継承し、品格ある意匠  
新館低層部の外観は、旧本館と同じ様式的構成とする。高層部は、低層部のデザインイメージにあわせ縦ライン強調のモダンな構成とし、全体にひとつの建物としてまとまりのある外観とする。
- ④フラワーロードの末端であると共に、海からの玄関口であることをふまえたシンボル性  
高層部の会議室と塔屋により、旧本館時計塔のイメ



旧本館外観



1階平面図

ージを継承したシンボリックな表現とする。

- ⑤将来予想される新港西地区の開発をふまえた計画  
メインエントランスは、北側から海に向かって開いたかたちの通り抜け通路とし、中庭や南側の植栽を整備することにより、周辺へと展開される「緑」の景観構成に寄与する。

⑥分散した動線の整理、高度情報化への対応

旧本館は広報・研修施設、新館は事務庁舎として明快に機能分離したゾーニングとする。

また、新館の執務エリアにはOAフロアを採用し、業務上の情報処理に対応する。

受賞賛助会員 東急建設(株)大阪支店、前田建設工業(株)関西支店

## たじま 「但馬長寿の郷」 建築工事

受賞機関 兵庫県まちづくり部営繕課  
兵庫県まちづくり部設備課  
兵庫県土地開発公社

### はじめに

県北に位置する但馬地域は、小規模自治体が多い中で過疎と高齢化が急速に進行し、福祉医療等のサービスが未整備な状態にある。このプロジェクトは、その広域的対応として「保健医療福祉の一体的推進」「県、市町、民間の新しい協力関係の構築」「都市と農村、世代間の多様な交流」を3つの柱に、「福祉の理想郷」を目指す、全国初の試みである。

### 事業の概要

14ha の山中に延床面積約8,000㎡の施設を分散配置し、造成・修景併せて14工区に分離発注。建設費32億8,000万、造成費11億円の難事業である。

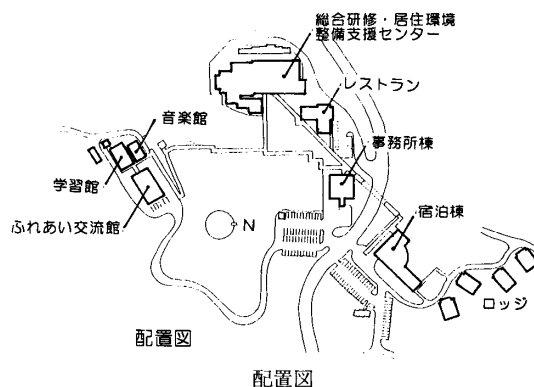
この施設は地域ケアの拠点として、在宅介護やハンディをもつ人の居住環境整備と専門的人材の派遣・育成を進める居住環境支援センター、管理事務所棟、多面的な交流のための茅葺き民家風の交流館、土蔵造りの音楽堂、木工・陶芸等の学習館を中心に、リゾートとしての宿泊棟とロッジ、レストランも整備しようというもの。

### 計画の特徴

敷地は起伏に富んだ山の中腹にあり、日本の田舎を象徴する長閑な里山風景を有しているが、高齢者等にはハンディも多く、また冬の自然環境も厳しい。

設計コンセプトは、①自然環境保全のための最小限造成、②バリアフリーなアクセスの確保、③地場産の活用と育成、コストの縮減、④現代日本人の郷愁を想起させる風景の創出、を基本とした。

①造成を最小限に抑えるため建物を小規模分散化し、同時に個々の建物のスケールダウンを図る。また、町道周辺の既造成地を積極的に活用し、修景緑化で里山の保全に努めた。②敷地を南北に分断する町道下にトンネルを抜き、それを基準レベルとした渡り廊下をネットワークの軸線とし、雨・雪に対応するバリアフリーも確保した。また傾斜地を利用して2階からの避難を容易にした。③本格的木造などの伝統的技術と地元職人の確保、材料の加工手間の省力化でコストの縮減に繋げた。④但馬地域に今なお残る民家のデザインをモチーフとして、中央ゾーンはやや現代的にアレンジ、交流ゾーンはそのものを再現しようとした。特に材料については「土」「木」「瓦」



全景



手前：支援センター、奥レストラン棟



交流館内部



レストラン棟から支援センターを見る



宿泊棟

「茅」「石」など天然の素材にこだわり、里山風景との融合を図った。

都市化近代化がもたらした、無味無臭、均質化・乾燥化した「現代感覚」ではなく、「潤いのある感覚」こそが日本の伝統的なそれであると思っている。

# もとふな 長崎港(元船地区)上屋(C棟)建設工事 (愛称：ドラゴンプロムナード)

受賞機関 長崎県土木部建築課

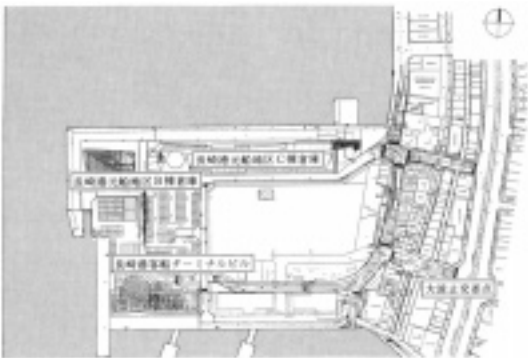
## はじめに

長崎県では、長崎港において「ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想」のリーディング・プロジェクトとして内港再開発計画を定め、①港湾交通機能の充実②都市経済機能の充実③臨海アメニティ空間の創出を理念として、21世紀に向けた「みなと長崎」再生の拠点づくりを進めている。元船地区では、内港部の上屋機能（旅客ターミナル、貨物倉庫等）の再編・再配置を計画し、特に、離島等への交通・物流のターミナル機能の充実を目指すとともに、市民の親しめる新しいウォーターフロントの創出のため、快適性を重視した賑わいの場の形成を目指している。

その一環として、平成7年に旅客ターミナル、平成10年に長崎港上屋倉庫（ドラゴンプロムナード）が完成したところである。

## 工事の概要

- 構造：鉄筋コンクリート造 4階建
- 規模：建築面積 6,348.99㎡  
延床面積 10,630.26㎡
- 事業費：約30億円
- 設計：三菱地所(株)+マイケル・ロトンディ（設計協力）
- 監理：三菱地所(株)、長崎県土木部建築課
- 施工：A工区 永川建設(株)  
B工区 谷川・吉川特定建設工事共同企業体  
C工区 東栄建設(株)  
D工区 大進・三菱重工業特定建設工事共同企業体



見取図



全景

## 事業の特徴

本建物は長崎港の元船地区に位置しており、約8,900㎡の敷地に地上4階建、延床面積約10,600㎡の港湾倉庫として建設されたものである。

設計にあたっては、長崎という街がかもし出す独特の空気に調和しながらも新たな都市景観を生み出すことが求められたものであり、「海」をコンセプトの核に据えて、長崎港の中心に存在することのシンボル性、ウォーターフロントに建つことによる親水性、街の活性化に寄与すべき賑わい性等を基本コンセプトとして計画された。

岸壁に沿って伸びやかに横たわるそのフォルムは、伝統行事である長崎くんちの蛇踊りを彷彿させると同時に、港に停泊するLPGタンカーの姿を思い起こさせる。

また、この建物の最大の特徴は屋上を市民に開放すべく設けられたプロムナード・デッキという新しい機能であり、デッキに立つと長崎の街とそれを囲む山々や海が一大パノラマとなって目に飛び込み、またライトアップされた夜間にはオレンジの球体を抱いた幻想的なシルエットがくっきりと浮かび上がり、市民の眼を楽しませている。

なお、屋上のプロムナード・デッキは現在隣接地で建設中の商業施設と連絡ブリッジで接続される予定であり、将来は元船地区を訪れる人々の回遊性が高まり賑わいが更に増すことが期待されている。

受賞賛助会員 三菱重工業(株)

## 新潟市民芸術文化会館建設及び周辺整備事業

受賞機関 新潟市総務局国際文化部市民文化会館整備課

### はじめに

新潟市は、信濃川河口に位置し、古くから「みなとまち」として栄えてきた。近年、中核市として国際文化都市づくりを目指す新潟市において、文化の振興・発展の拠点施設となる「新潟市民芸術文化会館」建設と「周辺の道路・公園」の一体的な整備を図ることを目的に、平成4年公開コンペを実施し、平成10年完成した。建設場所は市の中心部に位置し、隣接する「白山公園」や信濃川沿いの「やすらぎ堤」など、水や緑の自然環境に恵まれ、多くの市民から憩いの場として親しまれている。

### 建物の特徴

外観はガラスの外壁と緑化された屋上で覆われ、「ロビー」「ホワイエ」は半屋外的な空間として、夜にはホールに集う人々を中心に建物内の様子を美しく浮かび上がらせている。外周のガラスは「二重のDPG工法」を採用し、内部のアルミ幕が上下して空調効率を高め、室内の光と影を演出している。また、劇場を「浮き構造」として各ホール間の遮音性を高めている。

「コンサートホール」は最大2,000人収容のパイプオルガンを設置した「アリーナ形式」の音楽ホールで、残響時間が一定に保たれるよう客席椅子を工夫した。「劇場」は席数868人の専門ホールで、演劇・オペラ・歌舞伎など様々な舞台芸術に対応し、可動のプロセニウムアーチ、大小の迫り、本花道などが多彩な舞台空間の演出を可能にしている。「能楽堂」は席数382人で、舞台正面の鏡板を取り外すことで、奥の中庭が野外の雰囲気演出する。

開館前に、企画運営のできる人材を養成する「ワークショップ(N-PAC)」を開催し全国から高い評価を得たが、開館記念事業では国内外一流の舞台芸術だけでなく市民参加、市民企画が多くの感動を与えた。今後も市民中心の運営を図っていきたい。

### 周辺整備の特徴

施設周辺は文化施設と公園の一体化を図るため「道路の地中化」「公園整備」を行い、隣接する白山公園からやすらぎ堤・信濃川に至る地区を緑豊かなオープンスペースとして拡大整備した。公園内はブリッジ（遊歩廊）で



信濃川上空から見た建物と周辺の全景  
建物のまわりに「空中庭園」と「ブリッジ」が配置されている。



コンサートホール内部  
最大2,000人収容のアリーナ形式、正面はパイプオルガン

むすばれた空中庭園（人工地盤）が各施設を取り囲み、駐車場を分散配置して高木を主体とする緑地整備を行った。

### 施設の概要

建物	建築面積：10,062㎡
	延床面積：25,100㎡
	規模構造：6階建 高さ28.6mSRC造
周辺	道路整備：BOX道路（幅員7m長さ185m）
	公園整備：緑化整備（ケヤキ、桜、芝、他）
	空中庭園（高さ6.4m）
設計	長谷川逸子・建築計画工房

### 受賞賛助会員

㈱荏原製作所新潟支店、鹿島建設㈱北陸支店、㈱福田組、㈱本間組

## なら100年会館建設工事

受賞機関 奈良市

### はじめに

奈良市は、平成10年12月2日に「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録された数多くの文化遺産と緑豊かな美しい環境に囲まれた「まち」である。

このような奈良市にとって「保存と開発の調和のとれたまちづくり」を永遠のテーマに、JR奈良駅周辺地区において新たな都市拠点形成にむけた「シルクロードタウン21」計画を進めている。

「なら100年会館」はその中核施設として、また国際文化観光都市奈良の新たな文化発信基地となる複合的な文化施設として、市民と世界の人々が集い、多様な文化活動と交流の場となる機能を持った施設として、市制百周年に当たる平成10年10月に完成、平成11年2月にオープンした。

### 事業の概要

所在地：奈良市三条宮前町7番1号

敷地面積：16,061㎡

建築面積：6,416㎡

延床面積：22,682㎡

構造規模：S造・SRC造・RC造、地下1階地上5階

工期：平成8年4月～平成10年10月

設計：(株)磯崎 新アトリエ

### 事業の特徴

設計にあたり、優れたアイデアとデザインを世界の建築家に求めるため、二段階方式による国際建築設計競技を行った。

建物は、楕円形の平面及びクロソイド曲面に沿って内側に傾斜する断面形状からなる幾何学的外殻構造は、コンクリート補強鋼板シェルで構成され、その表面は燻し調の瓦タイルで覆われている。

施工に際しては、高所作業が避けられないドーム骨組を地上レベルに近い高さで行い、更に地組時に可能な限り仕上げ等も先付けしておくことで工期短縮が図れるパントドーム工法を採用した。

内部は、八つのステージ型式を持つ多目的に使用可能な大ホール（最大1,720席）、二重のガラスに囲まれた中ホール（446席）、小ホールが設置されている。

また、視覚障害者等のための設備においても、光走行



全景



大ホール



中ホール

式避難誘導装置・非常文字表示装置・携帯式バイブレーター・難聴者集団補聴装置を設置することにより、使用時及び緊急時の対応に配慮した施設となっている。

受賞賛助会員 (株)大林組、大林道路(株)、(株)鴻池組大阪本店、新日本製鐵(株)、大日本土木(株)大阪本店、壺山建設(株)、日特建設(株)、日立造船(株)、ヒロセ(株)、三井造船(株)、三菱重工業(株)関西支社